ブリティッシュ・カウンシルのオンライン教材は、CEFRに沿って難易度を【A1～C2】で表示しています。大まかな目安は以下のとおりです。

Pre-A1	小学生
A1	小学生～中学生
A2	中学生～高校生
B1	高校生
B2	高校生～大学生
C1-C2	大学生以上

CEFRと英語力検定試験との関連は以下をご参照ください。

「ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)」と「英語力検定試験」

「ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR: Common European Framework of Reference for Languages)」は、言語の枠や国境を越えて、異なる試験を相互に比較することが出来る国際標準です。

CEFR は外国語の熟達度を A1、A2 、B1、B2、C1、C2 の 6 段階に分けて説明しています。CEFR の等級は、その言語を使って「具体的に何ができるか」という形で言語力を表す「can-do descriptor」を用いて分かりやすく示しています。

外国語の熟達度を表す CEFR の等級には、コミュニケーションの状況や話題、タスク、目的に関する分析のほか、コミュニケーションに用いられる能力について等級別の解説も記載されています。

教員研修や、外国語の教育課程の改革、教材開発において CEFR がますます用いられるようになっている理由の一端はここにあると考えられます。

CEFR は欧州評議会（®Council of Europe）によって、20 年以上にわたる研究と実証実験の末に開発され、2001 年に公開されました。現在では 38 言語で参照枠が提供されています。また、CEFR は言語資格を承認する根拠にもなるため、国境や言語の枠を越えて、教育や就労の流動性を促進することにも役立っています。

日本国内で実施されている主な英語力認定試験について、CEFRを元に比較表にまとめました。それぞれの比較は、各試験実施団体の情報を元に作成しています。

BRITISH COUNCIL

IELTS の バンドスコア	CEFR	能力レベル別に「何ができるか」を示した熟達度一覧	TOEFL IBT [1]	英検 [2]
8.5 – 9.0	C2	聞いたり読んだりした、ほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。	C2 レベルは判定不能	ー
8.0 7.0 -7.5	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文章を理解して、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文章を作ることができる。	110 - 120	1 級
6.5 5.5 – 6.0	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。	87 - 109	準 1 級
5.0 4.0 – 4.5	B1	仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。	57 - 86	2 級
3.0	A2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。	40 - 56	準 2 級
2.0	A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。	データなし	3 級 4 級

注記：以下の注を参照のこと。

上記の表は、IELTS、TOEFL、英検の試験結果が「ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）」のどのレベルに相当するかについて、IELST の運営機関(CESOL, British Council, IDP Australia)と TOEFL の開発者である ETS、公益財団法人 日本英語検定協会がそれぞれ独自に実施した 3 種類の調査結果をまとめたものです。IELTS のバンドスコアがこの程度なら、TOEFL や英検ではこの点数になるというように、3 つの試験結果を換算するための表ではありませんのでご注意ください。また、試験結果に基づいて英語力のレベル分けをする際に、各テストを比較する目的にもこの表は適していません。あくまでも、試験のスコアを全般的に理解したり、CEFR との対比で試験スコアの意味を把握したりする際の参考としてください。

CEFR は共通の参照枠組みとして作成されたものです。言語の熟達度の基準を定めたり、いろいろな言語試験において、どの試験のどのレベルが別の試験のどのレベルに相当するか検討したりするためのツールとして開発されたものではありません。IELTS の運営機関や IELTS を受け入れている機関に、かならず IELTS のバンドスコアの詳細についてはお問い合わせください。

[1] 出所： ETS http://www.ets.org/Media/research/pdf/CEF_Mapping_Study_Interim_Report.pdf
[2] 出所： 日本英語検定協会 http://www.eiken.or.jp/forteachers/data/cefr/